



日進北小だより

令和3年8月26日 第5号 電話 048 (663) 1842 FAX 048 (663) 9884

<http://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標：心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する
～さらに、日本一 すてきなあいさつ 日北っ子～

「コロナ」と「感謝」と「リスペクト」

校長 平塚 信也

「夏休みが終了して元気な子供たちの声が学校に戻ってきました。」例年であればこう書き始める2学期の学校便りですが、今年も昨年に引き続き、まだまだ感染拡大に気を付けてのスタートとなりました。と書かなければなりません。まさかこれほど長期間の戦いになるとは思っていませんでした。しかもこれからもまだまだ戦い続けなければならない様です。しかし今年の夏にはオリンピックが開かれました。パラリンピックも一昨日開幕しました。10年前開催が決定したときこうなると予想した人はいませんでした。私たちはどう子供たちに感動を教えるればよいのか考えていくことになると思っていました。コロナ禍でオリンピックを開いた方がよかったのか、悪かったのかを判断することはできませんが、きっと子供たちにとって一生に一度の機会になるかもしれない今年の夏をマイナスの思い出だけにすることはもったいないと思います。未熟な子供たちにとっては、よいこともよくないこともすべてが経験です。このオリンピックからどんなことを伝えるのかは大人の責任だと思います。

今回のオリンピックのインタビューでよく生きた言葉に「感謝」がありました。多くの選手は「まず、このコロナ禍に開催してもらったことに感謝したい」と述べていました。日本の国の代表として国を背負ってスポーツをする。今年ほどは本当にみんなに感謝しながらプレーしているのを感じたオリンピックはなかったと思います。それはどの国の選手もそうでした。その感謝が日本に向けられているのを見るとよかったのではないかと感じました。そして、それぞれの選手の一生懸命のプレーに心から勇気をもらいました。だからこそどこにもいけない夏休みではありましたが、早く過ぎ去ったのではないかと思います。人は誰かのためにとと思うと力が出ます。自分のためだけでは力がわきません。誰かに感謝して、プレーすることに力が出ます。私が手帳に書いてよく見る言葉があります。東日本大震災のあとの女子サッカーワールドカップで優勝した澤選手の言葉です。

「われわれはサッカーをしているだけではないことを意識してきた。我々が勝つことで何かを失った人、誰かをなくした人、けがをした人、傷ついた人その人達の気持ちが一瞬でも楽になってくれたら私たちは特別なことを成し遂げたことになる」です。誰かのために、誰かに感謝して生きていくことで人は大きなことができることを伝えたいです。

もう一つ話題になったのは「リスペクト」という言葉でした。新しい競技で大変若いメダリストが誕生しました。そして多くの競技でメダル争いをしながらお互いをリスペクトしているという言葉でした。われわれは強いからすごい、勝った方が偉いと考えがちですが、オリンピックに出場するレベルになると勝手も負けてもお互いに「リスペクトし合う」

ものであると思いました。よく言われますが勝負は時の運です。

だからこそ批判もあったオリンピックに夢中になり、長い夏も短く感じたのだと思います。

一昨日教育委員会からのメッセージが届いたことと思います。本校の取組について保護者の皆様には本日手紙でお知らせしました。よろしく申し上げます。また、メールにもありました通りオンラインによる授業を開始いたします。はじめての試みですのでご家庭で操作いただくことや不具合等があるかもしれません。その際にご連絡申し上げます。